

NPO法人 高蔵寺ニュータウン再生市民会議発行 (☎080-4540-3553)

高蔵寺ニュータウン再生市民会議が2017年度総会 「市民協働」など実践の強化を提起

高蔵寺ニュータウン再生市民会議（通称・どんぐりs）の2017年度（第10期）定期総会が5月21日、東部市民センターで開かれた＝写真。

正会員45名中、委任状15名を含む41名の出席。議長に選出された寺島氏の進行のもと、3議案が審議された。今期の活動報告では、愛知建築士会の助成金をもとに展開した「どんぐりsカフェ」や「すまい相談」事業、また、春日井市地域福祉課の助成金を活用して実施した「大人のたまり場」での地域の居場所づくりと「くらし相談事業」について、詳細な報告があ

役委員会から

●多くの団体が役員の高齢化と後継者探しに苦勞している実態がある。ご多分に漏れず「どんぐりs」もここ数年同じ悩みを抱えている。そのためには役員主導による活動スタイルから、若年層や女性をはじめ誰もが気軽に参加できる活動への転換が必要ではないかとの意見があり、その方向を模索しているところです。その手始めとして、今回の定期総会で新たに豊富な地域活動の実績をもつ2人の女性の理事就任をお認めいただきました。理事長としてはお二人の力が発揮できる環境づくりを目指したいと思っています。

●一方、「どんぐりs」に対する評価や期待を会員および広く一般の方々からお聞きしてはどうかとのアイディアも提案されています。まずは、定期総会でお認めいただいた活動方針を実践していく中で機会をみて実施したいと思っています。

●定期総会を終え、役員会は新たな気持ちで第一歩を踏み出そうとしています。ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

（藤城 栄一）



り、相談件数の伸び悩みの克服が次年度の大きな課題であるとの報告があった。また、前期は春日井市ニュータウン創生課や地域福祉課などの行政との連携や地域の各種団体との連携が進み、「市民協働」への足掛かりになったとの評価がなされた。今期の活動方針では、最近のニュータウンの動きに鑑み、行政やURへの働きかけや具体的な実践を強化することが提起された。

最後に、新たに2人の女性理事を迎えることで、より親しまれる「どんぐりs」を目指したいという提案があった。以上の報告、提案が、全て満場一致で了承された。（藤城 栄一）

6月の「どんぐりsカフェ」

テーマ： 地域密着歌姫・田中由美子さんによる「父の日 コンサート」

日時： 6月17日（土）13：30～16：00

会場： 東部ほっとステーション
（サンマルシェ南館1階）

参加費： 200円。当日受付。

高齢者すまい面接相談

●まずはお電話ください：

080-4540-3553（どんぐりS事務局）

面接相談会日時：6月4日（日）、同25日（日）

（ともに13：30～16：00）

会場： 東部ほっとステーション

総会で竹内岐大名誉教授が講演 生活交流支える交通を

5月21日の高蔵寺ニュータウン再生市民会議（どんぐりs）の総会で、岐阜大名誉教授の竹内伝史氏（写真・高座台在住）が、「高蔵寺ニュータウン再生とコンパクトな地域づくり～生活交流型交通計画を中心として」と題し講演を行った。



竹内氏はこの中で、高蔵寺ニュータウンは人口膨張時代に深刻な住宅不足解消を最優先に造成された。交通システムも通勤通学の側面から見るとかなり良くできている。しかし、少子高齢社会に転換した現状は、交通政策の主題は通勤通学から、買い物や通院、住民同士の交流な

ど生活の質の向上に移すべきだ、と指摘。また、マイカーの普及による住宅区域の拡散を修正し、街のコンパクト化は避けられない。高蔵寺NTは、「歩いて暮らせる」地域として中央台、高森台など7地区にセンターを集約するのが現実的だろう。NTと高蔵寺駅を結ぶ幹線とともに、各地区同士をを小型バスなどで結ぶ交通網を整備する。交通計画・街づくりには、過度な自動車依存から、電動式歩行支援装置の整備など交流と生活を重視した、人間らしさを取り戻すという観点が大切だ、と強調した。（明賀 雄二）



捕獲（北海道・羅臼沖）

森 健

私の朝・昼・晩

間伐ボランティア

おじさんは山に（人間にとって不都合な）木を伐りに行きます。間伐ボランティアです。基本的には手付かずになり、密集しすぎた人工林のスギ、ヒノキを伐っています。ベテラングループに参加させてもらう時は、畑への日当たりを確保する為だったり、民家に倒れそうな木を伐ったりもします。

人工林を間伐する社会的な一番の意義は、土砂災害などの軽減だと考えられています。ただ、実際、間伐活動をしているときに、使命感で行っているという意識はありません。どちらかという、楽しみながら行なうスポーツ感覚の活動と言った方がシックリします。木の枝振りや幹の曲がり具合などから重心が、どこにあるのかを考え、他の木などになるべく引っかからないように、倒した後の処理が楽な方向に倒れるように伐倒していきます。ビリヤードやカーリングなどに少し近いかもしれません。チェーンソーを使うので、モータースポーツ的な気分もあるかもしれません。まだ、おっかなびっくりなので、イイ汗と冷や汗をかきながら、月1、2回程度、楽しんでいます。（村上 貴彦）

6月10日にヒマワリ苗植え付け

「高森台県有地の活用を提案する市民の会」（愛称・市民の会）が呼び掛けた、高森台県有地内の高齢者福祉施設「どんぐりの森」入口のヒマワリ植え付けは、今年も約400鉢の種が市民の手にわたり、6月10日にはみなさんに苗を持ち寄っていただき、移植を予定している。

春日井市は今年度「緑の奨励金制度」を設け、市民の会も「ハナモモの苗」を35本申請し採択された。また、三菱UFJ環境財団からも「ハナモモの苗」50本贈呈が正式に採択された。「第一回ハナモモ育樹祭」で植えたハナモモ60本のうち、4月初旬に20本の若木に白、ピンク、紅色の3色の花が咲き始めた。（寺島 靖夫）

6月の「大人のたまり場」

日時： 6月14日（水）同28日（水）
（ともに13：00～16：00）
会場：「いつだっていま」（東高森台集会所そば） 参加費 200円

●問い合わせ先

080-4540-3553（どんぐりs事務局）